

研究論文

# 保育現場における絵本との関わりの実態を踏まえた 保育者養成の在り方

中島 啓子<sup>1)</sup> 工藤ゆかり<sup>2)</sup>

1) 北翔大学短期大学部こども学科 2) 北翔大学教育文化学部教育学科

## 抄 録

本学短期大学部こども学科及び教育文化学部教育学科の学生は、幼稚園・保育所・認定こども園等に将来就職する学生がほとんどである。保育現場では、ほぼ毎日絵本の読み聞かせが行われ、その絵本の世界から遊びに広がるのが、保育現場での観察、保育者へのインタビューを通して確認された。また、保育者は担任する子ども、クラスの成長・発達を願い、子どもの中に育つことを期待する明確なねらいを持って、絵本の選書や読み聞かせを行っていることも確認された。以上のことを踏まえ、こども学科及び教育学科では4～6科目で段階を踏みながら重層的に絵本に関わる授業を展開してきた。その成果として、子どもの成長・発達、興味やニーズに応じた絵本を選ぶ力、絵本との関わりを通して子どもの中に育つことを期待するねらいを明確に持った選書の在り方と読み聞かせの実践力については養成されていると捉えることができる。今後も継続、充実させていく。一方、絵本から生活や遊びへ発展させる実践力については、本学で取り組んでいる内容が保育現場における実践と結びついていないことが確認された。遊びを通して子どもを育てる保育現場で求められる保育者として必要な保育実践力であることから、今後の授業展開に取り入れていくこととする。現在、保育現場に出向くことが難しい状況ではあるが、絵本から遊びの世界に広がる保育展開を写真や動画、可能であれば保育現場の観察を通して、今後養成していきたい。

キーワード：絵本を選ぶ力、絵本の読み聞かせの実践力、絵本から生活や遊びへ展開  
重層的な授業展開

## I. 研究の目的

本学短期大学部こども学科及び教育文化学部教育学科幼児教育コースの学生は、幼稚園教諭免許及び保育士資格を取得し、大半の学生が幼稚園、保育所、認定こども園等に将来勤務する。その学生が、幼稚園における教育実習及び保育所における保育実習等で、一度は絵本の読み聞かせの実践を経験する。中には、実習期間中ほぼ毎日読み聞かせの実践をする学生もいる。

絵本の価値について玉置 (2015)<sup>1)</sup>は「絵本は『言葉(文学)』と『絵(芸術)』と『(めくっていくことから生まれる)物語』の総合芸術」と論じている。また、絵本が子どもにもたらす効果について玉置 (2015)<sup>2)</sup>は「大人が心をこめて読んであげたり、子どもが喜んで味わうことで絵本は文化となり、心の栄養となっていく」、瀧

(2018)<sup>3)</sup>は「子どもたちの興味や発達にあったよい絵本は健やかなころを育みます。」と述べている。さらに、絵本との関わりについて浅木 (2016)<sup>4)</sup>は「『絵本』とは、子どもとおとながともに楽しむ子どもの文化財です。おとなが読み聞かせることによって、子どもは耳で言葉を聞きながら絵本の絵を楽しみ、イメージの世界を広げ、想像力を羽ばたかせます。」、仲本 (2017)<sup>5)</sup>は「絵本を読み合うことで、新たな想像を巡らせながら遊びたいという意欲を持つ」と論じている。

前述の議論から、絵本とは言葉と絵と物語の総合芸術であり、大人が心を込めて読んであげることで子どもの心が育ち、遊びへと広がっていくと捉えられる。

幼稚園教育要領 (2017)<sup>6)</sup>、保育所保育指針 (2017)<sup>7)</sup>、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (2017)<sup>8)</sup>の満3歳以上児の領域「言葉」のねらいの3点目に「日常生活に必要な言葉がわかるようになる」とともに、絵本や物語

などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、先生や友達と心を通わせる」とあり、保育所保育指針(2017)<sup>9)</sup>、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017)<sup>10)</sup>の満1歳以上満3歳未満児の領域「言葉」のねらいの3点目に「絵本や物語等に親しむとともに、言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる」とある。幼児期に絵本や物語などの世界に浸る体験の大切さが明記されており、保育現場でも子どもが絵本と関わる保育実践が求められている。

実習を経験した学生からの報告、筆者らが保育現場を参観及び聞き取りを行ったところでは、幼稚園・保育所・認定こども園いずれの保育現場でも絵本の読み聞かせが行われている。読み聞かせの時間は様々であり、朝の集まり、食事や午睡の前、降園前の一時など毎日同じ時間に行う園もあれば、つなぎの時間に行う園もある。絵本の選書については、園全体で選書して計画的に購入している園もあれば、各クラスの担任が自分の担当クラス向けに選書して園の運営費で購入、中には保育者個人が購入している園もある。一人一人の子どもが絵本と出会う環境の構成として各保育室に絵本コーナーを設置、および全ての園児が利用できる絵本コーナーを設置している園もある。さらには、家庭へ絵本の貸し出しをしている園もある。

以上のように、様々な園で実習を経験した学生が、保育中の絵本との関わりについて実習報告会等で後輩に伝え、次に実習に行く学生が読み聞かせを行う絵本の準備をしたり、読み聞かせの実践力を身に付けたりして実習を迎えようとする。

本学での絵本に関する学びは、短期大学部こども学科では、「こどもと絵本」(1年前学期)、「保育内容言葉」(1年後学期)、「教育実習講義Ⅰ」(2年前学期)、「教育実習講義Ⅱ」(2年後学期)の科目で取り扱う。教育文化学部教育学科では、「保育内容(言葉)」(2年前学期)、「こどもの言葉あそび」(2年後学期)、「保育内容指導(言葉)」(3年前学期)、「保育実践演習」(4年後学期)の科目で取り扱う。この他、3年次「専門演習Ⅰ・Ⅱ」、4年次「卒業研究」のゼミナール活動にて絵本に関する実践や研究に取り組む学生もいる。

本研究では、学生が実践的に学ぶ実習先でもあり将来保育者として保育実践をする場でもある幼稚園、保育所、認定こども園等の保育現場における絵本との関わりの実際を、今まで収集した情報を整理、さらに新たに保育現場に向いて観察及び聞き取り調査を行うことを通して、再確認をする。そのことを踏まえ、絵本に関する保育実践力をどのように育んでいくかを、今までの授業展開を振り返ることを通して明らかにすることを目的として取り組む。

## Ⅱ. 保育現場における絵本との関わり

### 1. 絵本及び絵本に関わる活動の歴史

保育現場における絵本との関わりを探るにあたり、まず日本における絵本と絵本に関わる活動の歴史を確認する。

日本における絵本と読み書きせの歴史は、仲本(2015)<sup>11)</sup>によると、平安時代の絵巻物を起源とし、子どもを対象に作られた絵本としては江戸時代に作られた赤本とのことである。読み聞かせに関する言及は、東京女子師範学校の教授兼附属幼稚園批評掛であった東基吉が1905年に刊行した『家庭童話-母のみやげ』の広告文に「おっ母さん、昔話を聞かせて頂戴!とは每晚可愛い子供たちの口から聞くところではありませんか?この書物は、子供たちのこの無邪気な請求に感じるために出来た教育お伽話を集めたものであります。」とあり、この頃にはお話は大人が子どもに読み聞かせるものとなっていたことが伺える。

その後、大正期から昭和にかけて『赤い鳥』『金の船』『おとぎの世界』『コドモノクニ』『子供の友』『コドモアサヒ』など、芸術性の高い児童雑誌や絵雑誌が生み出され、絵本が社会的に認知されるようになった。1920年に日本幼稚園協会が発刊した『幼児に聞かせるお話』は幼児に読み聞かせることを目的としており、当時の家庭教育に「読み聞かせ」が浸透していたことが伺える。

1956年には、日本の代表的な子どもの本の出版社である福音館書店が月間絵本『こどものとも』を創刊し、戦前の教訓的な絵本の活用から、子どもが心から楽しい、おもしろい、美しいと感じるための子ども主体の絵本作りがされるようになる。

1960年には椋鳩十が「親と子の20分間読書」という読書運動を提唱した。その趣旨は『教科書以外の本を子どもが20分間くらい読むのを母が、かたわらにすわって、静かに聞く』というものである。

1967年には日本子どもの本研究会や日本親子読書センターが発足し、全国で「読み聞かせ」の活動が広がっていき、家庭、保育現場、地域社会において実践されるようになったとある。

上記の流れを受け、保育現場で読み聞かせが行われるようになり半世紀以上経過している。では、保育現場では子どもがどのように絵本と関わるのが求められているのであろうか。

幼稚園教育要領解説(2018)<sup>12)</sup>、保育所保育指針解説(2018)<sup>13)</sup>、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(2018)<sup>14)</sup>の領域「言葉」の内容には、「幼児(子ど

も、園児)は、絵本や物語などで見たり、聞いたりした内容を自分の経験と結び付けながら、想像したり、表現したりすることを楽しむ。一人で絵本を見て想像を巡らせて楽しむこともあれば、教師(保育士等、保育教諭等)が絵本や物語、紙芝居を読んだり、物語や昔話を話したりすることもある。」と、子どもが絵本の世界に浸ること、それを遊びに繋げ表現するなどの具体的な経験を想定している。また、子どもの絵本との関わりは、一人でじっくり絵本を見る、保育者が読み聞かせること両方を想定していることが読み取れる。

## 2. 保育現場における絵本選びの実際

児童書の1年間の新刊点数は、総務省統計局の調査によると、絵本を含む児童書は年間4,000点以上発刊されている。『認定絵本土養成講座テキスト』(2020)<sup>15)</sup>によると、「1970年代に絵本ブームが起こり、出版点数が飛躍的に伸び、絵本はあかちゃん絵本から大人が読むものまで対象年齢の幅を大きく広げ、今に至る。」とある。その多くの絵本から、子どもにどのような観点でどの絵本を選ぶと良いか迷う保護者や保育者は少なくないようである。『あかちゃん絵本200冊』(2019, 玄光社), 『絵本ガイド』(2017, 能登印刷出版社), 『絵本の選び方』(2013, エイ出版社), 『絵本の読み方選び方』(2016, 小学館), 『人生の1冊の絵本』(2020, 岩波書店), 『100冊の絵本と親子の3000日』(2014, 教育出版社), 『保育と絵本』(2018, エイデル研究所), 『絵本から広がる遊びの世界』(2019, 風鳴舎)など、絵本選びに関する書籍が多くある。

『100冊の絵本と親子の3000日』(2014)<sup>16)</sup>と『絵本から広がる遊びの世界』(2019)<sup>17)</sup>では、本全体を通じて子どもの年齢・発達に応じた絵本選びを紹介している。『保育のなかの絵本』(2015)<sup>18)</sup>では、①言葉と絵と物語の総合芸術としての価値のあるもの、②その子、そのクラスの発達やニーズにぴったりのものという2つの観点を挙げている。『保育と絵本』(2018)<sup>19)</sup>では、①子どものところにそった子ども達が楽しめるもの、②大人自身も子どもと絵本の喜びを共有できるもの、③日本語として品性がある美しい文章、④芸術として質の高い絵、⑤文と絵の調和、⑥主題がしっかりとてわかりやすい内容、⑦子どもが何度も繰り返し読んで欲しがるものという7つの観点を挙げている。『0～5歳子どもを育てる「読み聞かせ」実践ガイド』(2016)<sup>20)</sup>では、①読み聞かせをしている子ども達が見える絵の大きさのもの、②文章と長さ、絵の配置、絵と文などのバランスの良いもの、③目の前の子どもの成長・発達にあっているもの、④季節感・行事・好きなものなど子どもが共感できるテーマのあるものという4つの観点を挙げている。

前述の議論から、保育現場における絵本選びについては、①子どもの成長・発達、興味やニーズ、生活・遊びの流れに応じたもの、②美しい日本語、芸術として質の高い絵、主題がしっかりとていてわかりやすい物語の展開、③子どもも読み手である大人(保護者・保育者等)も楽しめ、何度でも繰り返し楽しめるものの3点と捉える。

では、保育現場ではどのように絵本を選んでいるのだろうか。2018年～2021年の間に訪問した幼稚園・保育所・認定こども園にて、読み聞かせの場面を参観させていただき、その後、日頃からどのような観点で絵本を選んでいるのかインタビューを行った。その結果を以下の表1にまとめた。

表1 保育現場における絵本を選ぶ観点

種別	読み聞かせた絵本のタイトル
対象児年齢	選書の観点
観察日	
認定こども園	『だるまさんが』
1歳児	リズムカルな言葉、繰り返しのあるストーリーなど、何度読んでも子どもが楽しめるもの
2018.12.7	
保育所	『おきなかぶ』
2歳児	繰り返しの言葉を子どもと一緒に楽しめるもの。シンプルな絵で、登場人物とお話が理解しやすいもの。絵本に合わせて言葉や動きを楽しめるもの。
2019.11.14	
幼稚園	『もりのおふろ』
3歳児	オノマトベや絵本の登場人物(動物)の動きを、読み聞かせながら一緒に楽しめるもの。
2021.5.14	
幼稚園	『まだまだまだまだ』
3歳児	3歳児の発達に応じた繰り返しのストーリー展開を楽しめるもの。はっきりとしたシンプルな画面構成のもの。
2021.7.12	
幼稚園	『どろんこもんちゃん』
3歳児	子ども達が共感しながら見ることが出来るように、日常の出来事を扱った内容のもの。
2018.10.4	
幼稚園	『3びきのやぎのがらがらどん』
4歳児	オノマトベや繰り返しがあがり、わかりやすいストーリー展開のもの。劇遊びやごっこ遊び等に繋がるもの。
2018.10.4	
幼稚園	『だめよディビット』
4歳児	現在のクラスの子どもの心によりそったストーリーのもので、遊びや生活に取り入れられるもの。
2021.7.12	
幼稚園	『わんぱくだんのおばけやしき』
5歳児	遊びへの動機づけとなるもの。期待を持って読み聞かせを聞けるようにシリーズものを選択。
2021.5.14	
幼稚園	『11びきのねこ』
5歳児	仲間と団結して物事に取り組む、冒険ものなど、子ども達の現在の育ちに近く、自分達の遊びや生活に取り入れられるもの。
2021.7.12	

表1にあるように、いずれの保育現場も、1～5歳児を対象に読み聞かせを行っており、保育者が自分の担当する子ども達にねらいをもって選書していた。

9人の保育者の絵本選書の観点を前述の3つの観点に分類すると、①子どもの成長・発達、興味やニーズ、生活・遊びの流れに応じたものが9人、②美しい日本語、芸術として質の高い絵、主題がしっかりとていてわかりやすい物語の展開が7人、③子どもも読み手である大人

(保護者・保育者等)も楽しみ、何度でも繰り返し楽しめるものが4人であった。多くの保育者が、自分が担当する子ども達に応じた絵本を選ぶということを大切にしていた。また、1, 2, 3歳クラスの保育者5名のうち4名が子どもの楽しめるものという観点で絵本を選んでいった。『あかちゃん絵本200冊』(2019)<sup>21)</sup>の中で「0歳・1歳・2歳の絵本は、子どもと大人が同じものを見て、笑ったり、喜んだり、ここを通わせるひとときである」と述べている。本調査の保育者もこの観点を大切にしていた。さらに、4, 5歳クラスの保育者4名全てが遊びや生活に取り入れられるものという観点で絵本を選んでいった。仲本(2017)<sup>22)</sup>は「絵本を読んで楽しんだことを遊びの中で表現せずにはいられない」様々な子どもの姿について紹介している。本調査の保育者も同様に、絵本の世界と現実の世界を繋げて遊びを豊かにしようという観点で絵本を選んでいく。

訪問した園の中で、園全体で絵本を選び計画的に購入し、絵本台帳を作成して管理している幼稚園があった。その幼稚園は、園全体の絵本コーナー及び各クラスの絵本コーナーを設置している。幼稚園の概要は、3・4・5歳児1クラスずつの定員90名の小規模園である。2021年5月14日に園に伺い、保育現場における絵本との関わりに関する研究のための調査とインタビューであることを伝え、園長、主任教諭、3・4・5歳児それぞれのクラス担任教諭にお話を伺った。

毎年絵本に関する予算を確保し、各クラスの担任教諭及び支援を必要とする幼児の担当教諭から購入を希望する絵本を出してもらい、全体で調整して購入しているとのことであった。

蔵書は、玄関横のオープンスペースに絵本コーナーを設置(写真1)し、淡いピンクの丸いテーブルと椅子も設置して、様々な子どもが自分の興味のある絵本を手に見たり読んだり、保育室に持参して保育者に読んでもらったりできるようにしているとのことである。子どもが興味のある絵本を探しやすいように、また関連する絵本を見つけられるように、同じ出版社の絵本、同じシリーズの絵本はまとめて配置しているとのことである。

開園以来30年余り経過しているが、毎年絵本を購入しているとのことである。蔵書数は、園の絵本の分類の仕方を参考に紹介すると、①長く読み継がれてきた(発刊して10年以上)絵本が190冊、②日本の昔話が20冊、③世界の昔話が20冊、④子どもが期待をもって読み進める『くまくんのえほん』『ぐりとぐら』『とんだちや』などのシリーズものが27シリーズ、⑤年長児のための幼年文学が10冊、⑥近年(10年以内)発刊された絵本が20冊ある。一人一人の子どもに興味や成長・発達に応じた絵本と出会うように、幅広くかつ教育的に価値のある絵

本を選書するようにしているとのことである。園全体の絵本が充実していることで、各クラスの担任教諭及び支援を必要とする幼児の担当教諭は、自分のクラスもしくは担当の子どもの成長・発達、興味やニーズ、生活や遊びの流れに応じた絵本を選ぶとのことである。各クラスの担任は、1か月に1回程度、保育室の絵本コーナーの絵本を入れ替えるとのことである。

毎年絵本を計画的に購入しているということで、絵本を紹介する複数の書籍(『あかちゃん絵本200冊』(2019, 玄光社), 『保育と絵本』(2018, エイデル研究所), 『100冊の絵本と親子の3000日』(2014, 教育出版社))にて紹介されている絵本がほぼ網羅されている。また、2021年に発刊された最新の絵本も含まれており、絵本に関する最新情報も収集している様子が伺える。



写真1 A幼稚園全園児対象の絵本コーナー

### 3. 子どもの絵本に対する反応と読み聞かせのあり方

#### 1) 1歳児の絵本に対する反応の観察(一人・母親が読み聞かせ)

表2 1歳児の絵本に対する反応の観察

観察日	2020年12月5日
観察対象	1歳2ヶ月女児(姉・兄) 未就園児で家庭保育 母親(37歳)
環境設定	過去の体験の違う絵本用意(母親からの聞き取り による本の選定) ・母親に読んでもらった経験のある絵本 ・幼児のお気に入りの絵本 ・幼児が初めて見る絵本
観察方法	1歳児のみ・親子一緒の2場面での観察

2020年12月5日に、1歳2ヶ月の女児と母親との絵本を通しての関わりについて観察した。環境設定として、幼児が目触れたことのある絵本と初めて見る絵本を混ぜ3冊用意した。

自主的に絵本に触れることができるように床に本を置き、触れやすい状態とした。この状況で幼児が、自由に

絵本に触れる様子を観察した。3冊の絵本全てを手にしたが、興味を示したのは1冊のみであり、その様子を観察した。

### 【1歳児が一人で絵本に関わった場面】

1歳児に対して母親が「絵本読む？」と言葉がけをして床の上に絵本を数冊置き、その場から離れる。1歳児は絵本に近づき、床に置いてある絵本を何冊か手に取っては、置いたりしながら、何冊か選んで頁を開き始める。1頁を見ているのは短時間ではあるが、閉じては開く動作を繰り返して、飽きることなく続けていた。そのうち本を手に持ち、絵本の左右のはじを持って広げた。本の天地は逆さではあるが時折、笑顔で体を振らせながら絵本を見ていた。また絵本を左右に揺すり、体を動かした始めた。



写真2 子どもの様子



写真3 親子の様子

### 【母親が読み聞かせを行った場面（未読の絵本）】

母親が1歳児の未読の本を、読み聞かせをする反応を観察した。1歳児が読んでもらったことのない絵本を、母親に読み聞かせを行ってもらった。この絵本は、1歳児に用意した絵本の中に入っていたが、1歳児は興味を示さなかった。親に絵本読みに誘われると、にっこりと微笑み親の膝の中に入ってきた。親が手にした絵本に目を向けて、母親が読み進めていくと、擬音語に反応して声を出す。単純な絵、鳴き声、音を自らも声を出す。初めは膝の上にはいたが、やがて立ちあがった。言葉の真似と思われる言葉を発し、絵に指さしを始めた。母親は「そうそう、ジャージャーだね。」と、応答的な対応をしながら、1歳児の発する言葉を受け止めた。

観察から、読んでもらった経験のある絵本に対して、主体的な反応を示したことから、経験の中で1歳児がその絵本を記憶していたと考える。このことを確かめるために、絵本の題名を1歳児に告げて観察者に渡してもらおうと試みると、その絵本を渡しに来た。読み聞かせの経験により、1歳児は絵本の題名を認知していることが確認できた。また体を揺り動かす動作は、読み聞かせながら母親が動作を付けていたことが分かった。絵本の絵と自分が経験したことが結びついていることが確認できた。文字の読めない1歳児は、絵本の文字を読んでいる

訳ではないが、何故楽しそうな行動を見せるのか。本をめくる行為を楽しんでいるのか。指先の動きも未熟である年齢で、本をめくるという動きを楽しむために何度も頁をめくる行為を繰り返すのか。1歳児は1頁ごとにめくることはまだ困難であり、まとめてめくれすぐに絵本の最後の頁になってしまうので、また最初からめくり始め、その行為を何度も繰り返す。そして、絵に見入る様子も見られた。未読であった絵本に対して、1歳児一人の場面では、興味を示さなかった。しかし、母親が読み聞かせをすることで、未知であった絵本に興味を示した。母親が1歳児と絵本との関わりの橋渡しをしたと考える。読み聞かせを始めると立ち上がって絵を指差ししたことから、場面に反応を示したと捉える。絵本の擬音語を真似する行為も見られたことから、言葉にも興味を示したことを確認した。1歳児は絵本の絵を指差ししながら、母親の顔を見たり、絵本を見たりする様子から自分と母親と絵本の3項関係を認識していると捉える。このことに関して、瀧（2018）<sup>23)</sup>は「赤ちゃんは、絵本の楽しみを読み手の大人と共有して喜ぶようになる」と述べている。親が読み聞かせを行った場面の様子からも3項の関係で大人と共有して絵本の世界を楽しんでいると捉える。

2つの観察は、E市主催の子育て支援の会に参加した際に、母親が子どもを膝の上に乗せて、読み聞かせをしている場面に出会った。時折母親の顔を見ながら、絵本を指差ししている姿があった。このことから読み聞かせによって、子どもは大人との共有体験を感じていると考えられる。

『保育所保育指針<sup>24)</sup>の「乳児保育」の社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」では、ねらいの2点目に「体の動きや表情、発声等により保育士等と気持ちを通わせようとする。」とある。また、内容の2点目に「体の動きや表情、発声、喃語等を優しく受け止めてもらい、保育士等とのやり取りを楽しむ。」、内容の4点目「発声や喃語等への応答を通じて、言葉の理解や発語の意欲が育つ」とある。

また、同じく『保育所保育指針<sup>25)</sup>の「1歳以上3歳未満児の保育」の言葉の獲得に関する領域「言葉」のねらいの3点目に「絵本や物語等に親しむとともに、言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる」とある。また、内容の4点目に、「絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣したりして遊ぶ」とある。この親子の観察から、絵本を仲立ちとして親子の言葉のやり取りや気持ちの通じ合いが生まれている。この時の1歳児は体を動かしたり、言葉を模倣したりする姿が見られた。読み聞かせを通して、1歳児に自主的な行動を誘発させ、母親が応答的な対応を行い、絵本を仲立

ちとして言葉の模倣、体の動きで母親と気持ちを通わせた。1歳児の成長を促していくには、絵本は有効であると考ええる。

## 2) 1歳児の絵本の読み聞かせの実際 【『だるまさんが』の読み聞かせ場面】

表3 観察及び調査方法

調査日	2018年12月7日
調査対象	認定こども園1歳児クラス
環境設定	1歳児保育室にて8名の子どもに対し『だるまさんが』の絵本の読み聞かせを行う
調査方法	読み聞かせ場面の観察と保育後の保育者へのインタビュー

2018年12月7日に認定こども園の1歳児クラスの『だるまさんが』の絵本を8名の子どもに読み聞かせを行う場面を観察し、保育後に保育者にインタビューを行った。

子どもの様子は、次の展開を期待して見入り、笑ったり、動作を真似したりして読み聞かせを楽しんでいた。

保育者にインタビューすると、『だるまさんが』『だるまさんの』『だるまさんと』の3冊共に好み、何十回も読み聞かせているとのことである。繰り返し読み聞かせているうちに、絵本の内容を覚え、次の展開に期待しながら見るようになり、覚えたセリフは声に出すとのことである。そのことが楽しめるように、ゆっくりとしたペースではっきりとした言葉で読み聞かせるようにしているとのことであった。

また、一遊びして排泄を済ませて絵本の読み聞かせを行うと、気持ちが落ち着いたり、満足したりして、次の活動に移ることが出来るので、活動の切り替え時に絵本の読み聞かせを行っているとのことであった。

## 3) 2歳児の絵本との関わりの実際 【『おおきなかぶ』の読み聞かせ場面】

表4 観察及び調査方法

調査日	2019年11月24日
調査対象	保育所2歳児クラス
環境設定	2歳児保育室にて20名の子どもに対し『おおきなかぶ』の絵本の読み聞かせを行う
調査方法	読み聞かせ場面の観察と保育後の保育者へのインタビュー

2019年11月24日に保育所の2歳児クラスの『おおきなかぶ』の絵本を20名の子どもに読み聞かせを行う場面を観察し、保育後に保育者にインタビューを行った。

子どもの様子は、「うんとこしょ どっこうしょ」の言葉を保育者と共に発したり、かぶを引っ張る動きをしたりしていた。

保育者にインタビューすると、同じことの繰り返しとお話が進むにつれ仲間が増えていくことを楽しんでいるとのことである。あと4か月で幼児クラスに進級することを意識して、絵本の読み聞かせを通してみんなで一緒に楽しい一時を過ごし、自分はクラスの一員であるということ意識させようとしているとのことである。

お話の世界に入り込めるように、ゆっくりとしたペースで読み、保育者も絵本をかぶを引っ張るように動かしながら読み聞かせているとのことである。

## 4) 3歳児の絵本との関わりの実際 【『もりのおふろ』の読み聞かせ場面】

表5 観察及び調査方法

調査日	2021年5月14日
調査対象	幼稚園 3歳児クラス
環境設定	3歳児保育室にて15名の子どもに対し『もりのおふろ』の絵本の読み聞かせを行う
調査方法	読み聞かせ場面の観察と保育後の保育者へのインタビュー

2021年5月14日に幼稚園の3歳児クラスの『もりのおふろ』の絵本を15名の子どもに読み聞かせを行う場面を観察し、保育後に保育者にインタビューを行った。

もりのおふろにライオンが入っていると、ゾウ、ワニ、ブタなど次々と動物が現れ、みんなで「ごしごししゅっしゅ」と体を洗い、最後にみんなで湯船に飛び込むという、子どもが日常生活で体験する出来事を追体験できるお話である。読み聞かせ用に縦42cm×横40cmの大型絵本を選択して読み聞かせていた。

絵本を読み進めていくに従い、体を洗う際の「ごしごししゅっしゅ」を保育者と共に声に出したり、体を洗う動きをしたり、最後にみんなで湯船に飛び込む場面も椅子から飛び降りて再現したりしていた。絵本を目で見て、読み聞かせを耳で聞いて、絵本の登場人物になったつもりで表現することを楽しんでいた。

保育者もお話の世界に浸って、子どもと共に楽しみながら読み聞かせているとのことである。

## 【『まだまだまだまだ』の読み聞かせ場面】

表6 観察及び調査方法

調査日	2021年7月12日
調査対象	幼稚園 3歳児クラス
環境設定	3歳児保育室にて20名の子どもに対し『まだまだまだまだ』の絵本の読み聞かせを行う
調査方法	読み聞かせ場面の観察と保育後の保育者へのインタビュー

2021年7月12日に幼稚園の3歳児クラスの『まだまだまだ』の絵本を20名の子どもに読み聞かせを行う場面を

観察し、保育後に保育者にインタビューを行った。

子どもの様子は、保育者が頁をめくるたびに、絵本の絵に見入る姿が多く見られた。絵に注目し、指をさしたり、「ウシだ」「トラックだ」と気付いたものを声に出す子どももいた。まだまだ走り続ける主人公に、「まだ走ってる」と言い笑う子どももいる。

保育者にインタビューすると、お話の展開と共に背景が変化していくことも楽しんで欲しいと考え、1つ1つの場面をじっくり見せながら読み聞かせたとのことである。

#### 5) 4歳児の絵本との関わりの実際

##### 『3びきのやぎのがらがらどん』の読み聞かせ場面

表7 観察及び調査方法

調査日	2018年10月4日
調査対象	幼稚園 4歳児クラス
環境設定	4歳児保育室にて35名の子どもに対し『3びきのやぎのがらがらどん』の絵本の読み聞かせを行う
調査方法	読み聞かせ場面の観察と保育後の保育者へのインタビュー

2018年10月4日に幼稚園の4歳児クラスの『3びきのやぎのがらがらどん』の絵本を35名の子どもに読み聞かせを行う場面を観察し、保育後に保育者にインタビューを行った。

子どもの様子は、以前に3回読み聞かせているとのことで、「ガタゴトガタゴト」などのオノマトペを保育者と共に声に出したり、やぎのことを応援したりする様子が見られた。

保育者にインタビューすると、表現遊びに繋がることを期待して、オノマトペをはっきり発音するように心がけたり、ちいさいやぎ、にばんめのやぎ、おおきいやぎ、そしてトロールと役の読み分けに心がけたとのことである。2回目に読み聞かせた後から巧技台で橋を作り、トロールとやぎのお面を用意しておいたところ、劇遊びが始まったとのことである。子ども達は好きな遊びの時間帯に劇遊びを楽しみ、クラスみんなで集まった一時に「先生、がらがらどん読んで」と保育者の読み聞かせに期待をし、何度も楽しんでいるとのことである。

#### 6) 5歳児の絵本との関わりの実際

##### 『わんぱくだんのおばけやしき』の読み聞かせ場面

表8 観察及び調査方法

調査日	2021年5月14日
調査対象	幼稚園 5歳児クラス
環境設定	5歳児保育室にて20名の子どもに対し『わんぱくだんのおばけやしき』の絵本の読み聞かせを行う
調査方法	読み聞かせ場面の観察と保育後の保育者へのインタビュー

2021年5月14日に幼稚園の5歳児クラスの『わんぱくだんのおばけやしき』の絵本を20名の子どもに読み聞かせを行う場面を観察し、保育後に保育者にインタビューを行った。

『わんぱくだんのかくれんぼ』か『わんぱくだんのおばけやしき』2冊のうちどちらを見たいか子ども達に問いかけていた。挙手の結果『わんぱくだんのおばけやしき』を見たいという子どもが多く、こちらを読み聞かせることとなった。この日以前には同シリーズの読み聞かせを行っていたとのことである。

おばけがでてくるということで、「おばけ出て来るんだって」「キヤーおばけ」と楽しそうにする子どももいれば、「おばけ怖い」と目を塞ぎながらも覗き見る子どもも2名程いた。絵本の内容を理解し、お話の世界を楽しめる発達段階の5歳児、自分も絵本の主人公であるわんぱくだんの一員になったつもりで読み聞かせを聞いているようであった。

お話の中で起きた不思議な出来事を振り返るうちに、絵本の裏表紙に描かれた絵が登場人物なのかおばけなのか話題となった。絵本の絵やストーリーの細部にも気付きがあり、保育者は子ども達が裏表紙の絵を確認できるように、一人一人に見せに行った。

保育者にインタビューすると、この本の前に読み聞かせた「わんぱくだんのにんじゃごっこ」をきっかけに、お城を作り、修行をしたり戦ったりなどして忍者ごっこを楽しんでいるとのことである。この後、「わんぱくだんのおばけやしきごっこ」の絵本からお化け屋敷ごっこの遊びへと繋がっていくかもしれないと予想して読み聞かせたとのことである。

#### 7) まとめ

1歳児は、自分で出来るようになった能力を発揮しながら、絵本と関わっていた。母親や保育者が読み聞かせをしてくれる絵本に興味を示し、絵本を共に見ながら母親や保育者が1歳児の発する発声や体の動きに反应的に関わることで、1歳児と気持ちを通わせていた。絵本の読み聞かせを通して、乳児保育の3つのねらいの1つである「身近な人と気持ちが通じ合う」側面が育っていた。保育者は、子どもがじっくり絵本の中味を楽しめるようにゆっくりしたペースではっきりとした言葉で読み聞かせていた。また、生活の流れの中で望ましいタイミングで絵本の読み聞かせを行うように留意していた。

2歳児は、模倣しながら物事を覚えていく発達段階であることから、模倣することが楽しめる絵本を繰り返し読み聞かせていた。読み聞かせる際に、子どもがお話の中の動きを模倣できるように絵本を動かしていた。また、乳児保育から1歳以上3歳未満へ移行することを見

据え、周囲の身近な人に関心をもてるようになることも願って絵本の読み聞かせがされていた。

3歳児は、絵本を通して日常生活を体験し、絵本を目で見て、読み聞かせを耳で聞いて、絵本の登場人物になったつもりで表現することを楽しんでいった。また、お話の展開と共に変化する背景を楽しめるように、1つ1つの場面をじっくり見せていった。

4歳児は、絵本のお話をきっかけに、表現遊びなど様々な遊びに繋がっていくことを願って読み聞かせを行っていた。ごっこ遊びを展開しながら、繰り返し保育者に読み聞かせてもらうことを楽しみ、お話の世界と現実の世界を行ったり来たりしながら絵本から遊びの世界へと広がっていた。

5歳児は、4歳児同様絵本のお話から遊びに繋がっていくことを願って読み聞かせが行われていた。絵本からイメージが広がり、忍者になったつもり遊びを仲間と考えて進めていった。また、絵本の細部に渡る子どもの気付きがあり、保育者はそれに対応していた。

いずれの年齢も、子どもの発達に応じた絵本との関わりが出来るように、読み聞かせの在り方の工夫、その後の生活や遊びへ繋がる準備がされていた。この点は、本学の保育者養成にも取り入れるべきであると考えられる。

### Ⅲ. 絵本に関わる保育者養成の在り方

保育現場での絵本に関わる実践の様子から、絵本に関する保育実践力とは、①担任、担当する子どもの成長・発達、興味やニーズに応じた絵本を選ぶ力、②絵本との関わりを通して子どもの中に育つことを期待するねらいを明確に持った選書の在り方と読み聞かせの実践力、③絵本から生活や遊びへ発展させる実践力であると捉えられる。

そこで、本学短期大学部こども学科と教育文化学部教育学科の絵本に関する授業展開を振り返り、現在の実践を評価し、この後の授業展開のあり方について検討する。

#### 1. 絵本に関する授業展開の概要

本学短期大学部こども学科及び教育文化学部教育学科における絵本に関する授業展開は以下表9の通りである。

短期大学部こども学科は4科目、教育文化学部教育学科は4～6科目と、様々な科目で重層的に取り組むことで、保育現場で活用できる絵本と関わる保育実践力を身に付けられるようにしている。

表9 こども学科及び教育学科の絵本に関する授業展開

	授業名	絵本に関する内容
こども学科	こどもと絵本 (1年前学期)	様々なジャンルの絵本について学び、絵本リストを作成
	保育内容言葉 (1年後学期)	絵本の選書の在り方について学ぶ
	教育実習講義Ⅰ (1年後学期)	絵本に関する保育実践の在り方について考える
	教育実習講義Ⅱ (2年前学期)	絵本の読み聞かせ実践 オノマトペを活用した保育実践の指導案作成
教育学科	保育内容(言葉) (2年前学期)	絵本の価値について学ぶ 絵本に関する模擬保育実践
	こどもの言葉あそび (2年後学期)	絵本に関する保育実践
	保育内容指導(言葉) (3年前学期)	絵本の読み聞かせ実践
	専門演習Ⅰ・Ⅱ (3年前・後学期)	絵本に関する取組を含む実践的な学び
	卒業研究 (4年通年)	絵本に関する取組を含む研究
	保育実践演習 (4年後学期)	ねらいに基づいた読み聞かせ実践

## 2. 絵本選書に関する授業展開

### 1) 短期大学部こども学科『保育内容言葉』の実践

絵本は子どもの言葉の発達を促す「児童文化財」である。『保育内容言葉』では児童文化財として、絵本と紙芝居を取り上げている。まず絵本を読む練習の前に下記の内容を意識して読み聞かせを行うよう確認した。

表10 絵本の読み聞かせに際しての確認事項

・ 絵本のつくり(表紙・裏表紙・挿絵・頁数)
・ めくりかた(おくり・むかえ)
・ 絵本の見せ方、持ち方、読み手の位置
・ 挿絵、絵からの発見のための見せ方
・ 言葉、読み方
・ 開くスピード(子どものつぶやきを大事にする)
・ 余韻、間の取り方

読み聞かせに取り組む前に押さえておきたい事項について授業で取り上げた。一人一冊絵本を持参し、実際に絵本を開きながらポイントを確認していった。読む時の読み手の位置、絵本の持ち方、絵本を開く向き等を、子どもの見やすさを配慮して演習を行った。

表11 3～5歳に読み聞かせる絵本の選書(1人1冊)

調査日	2018～2020年
調査対象	「保育内容言葉」受講者1年生 2018年(74名)2019年(99名)2020年(80名)
調査内容	選定本 選定理由を記述
発表方法	選定した本を受講クラスの前で発表

子どもの想像力や言葉に対する感覚を育む絵本に対する

る理解を深め、子どもに作品の楽しみ方を伝えられる力を身に付けるために、短期大学部こども学科では学生に対して、自分の生活の中に取り入れてきた自らの経験も参考にして、子どもに読み聞かせたい絵本の選書を行った。受講学生に選書理由を記述させ、発表を行った。

調査対象者は過去3年間で表11の通りである。

表12 選書の冊数

2018年	56冊	シリーズ絵本4
2019年	59冊	シリーズ絵本2
2020年	30冊	シリーズ絵本1

選定した絵本の冊数は表12の通りである。

この選書の内容をさらに見ていくと、調査年度による選定の傾向が見られた。2018年、2019年は種類が多いが、2020年度は同じ絵本を選ぶ割合が高かった。書店で巡り会ったという動機の絵本が多い。現在話題になっている人気の絵本も選書されており、絵本に関する新しい情報を取り入れる傾向も伺えた。

学生の選書を『ミリオンセラー絵本ランキング2020』(2020)<sup>26)</sup>と比較すると、ランキング上位10位のうち6冊を選書している。『ぐりとぐら』(2位)、『はらぺこあおむし』(3位)、『しろくまちゃんのほっとけーき』(4位)、『てぶくろ』(5位)、『おおきなかぶ』(6位)、『ねないこだれだ』(7位)である。また、『だるまさん』(11位)、『はじめてのおつかい』(22位)、『ぐるんぱのようちえん』(23位)、『おしいれのぼうけん』(25位)も選書している。全体の割合では、多くの人に長年親しまれてきたミリオンセラー絵本を推奨する学生が17%(47冊/275冊中)であった。後の83%(228冊/275冊中)は、様々な絵本を選書していた。

表13 ミリオンセラー絵本ランキング2020上位25位以内の絵本における学生の推奨絵本3年間の経緯

ミリオンセラー絵本3年間の経緯(複数推奨)			
題名	2018年 (n:74)	2019年 (n:99)	2020年 (n:80)
ぐりとぐら	1	1	6
しろくまちゃんのほっとけーき	1	2	3
はじめてのおつかい	2	1	6
おしいれのぼうけん	2	0	4
ぐるんぱのようちえん	1	0	1
てぶくろ	1	0	1
ねないこだれだ	1	0	1
はらぺこあおむし	3	0	3
だるまさん	0	1	3
おおきなかぶ	0	1	3

多くの新しい絵本が毎年発刊されている。その中からミリオンセラー絵本を推奨する学生が、3年間の流れか

らも顕著であった。この選書から読み継がれている優れた絵本を、継承しようとする動きが感じられた。

学生の選書理由の観点は以下表14の通りである。

表14 絵本選書理由の観点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分が読んでもらった経験・記憶がある</li> <li>・ 登場人物の心情への共感性が生まれる</li> <li>・ 訴えるメッセージ性がある</li> <li>・ 絵本の絵の描写が魅力的である。(繊細さ・発見の楽しみ・シンプルさ)</li> <li>・ 子どもの成長への願いが込められている</li> <li>・ 幼児が模擬体験をできる</li> <li>・ ストーリーが感動的である</li> <li>・ 言葉(擬音語等)の心地よさが言葉から感じる</li> <li>・ 親子の関係の深まりの期待できる</li> <li>・ 本の構成(裏表紙・見開きの頁)が凝っている</li> <li>・ 読み手の願い</li> </ul>
--

さらに、この推薦理由から選書するに当たり、絵本のどのような特徴を決め手にしたのかを調査した3年間、複数の学生がコンスタントに選んでいた『はじめてのおつかい』と『しろくまちゃんのほっとけーき』の2冊の絵本を例に挙げて、その要因を探った。

表15 『はじめてのおつかい』選書理由の観点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 母に読んでもらった記憶がある。</li> <li>・ 自分の経験とリンクする 心の変化を感じる。</li> <li>・ 困難を乗り越える</li> <li>・ 裏表紙の絵、細かな描写、絵の中の面白さの発見</li> <li>・ 年上の成長の願いが込められている。</li> <li>・ 自分も一緒に体験するような共感性がある。</li> <li>・ ドキドキする心の動きを感じる。</li> </ul>
--

表16 『しろくまんのほっとけーき』選書理由の観点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読んでもらった記憶がある。</li> <li>・ 出来上がった時の共感性がある。</li> <li>・ メッセージ性がある。</li> <li>・ 色彩豊かで可愛らしくシンプルな絵が特徴で印象的</li> <li>・ 作り方を知る学びがある。</li> <li>・ 分かりやすい内容である。</li> <li>・ 言葉(擬音)の心地よさを感じる。</li> <li>・ 見開きの絵の効果がある。</li> <li>・ 将来子どもに読みたい。</li> </ul>
--

選書の理由に、講義で最初に取り上げた絵本の作りの構成にも注目している。裏表紙や絵の構成、文字と絵の左右の配分や頁の見開きで絵の効果をあげている。絵の中で発見した時の喜びや、絵の描写の細かい気付きも取り上げている。最初に取り上げた学びが選書の観点にも活かされていることが伺われる。

子どもに伝えたい事や知って欲しい事等、読み聞かせの対象の子ども成長を願う保育者の視点に立って、選

書していることがわかった。また絵本を仲立ちとした親子の交流も取り上げ、絵本の効果をねらっている。絵本の読み聞かせを通して、子どもの心の成長を願っていることが伝わってくる。読み手の子どもの成長への願いを込め優れたメッセージ性のある絵本を選書する観点をもって選書して欲しい。また授業での最初の学びが選書にも影響を与え、観点の参考になっていることもわかったので、さらに観点を吟味していかなければならない。

## 2) 教育文化学部教育学科「専門演習Ⅰ」の実践

教育文化学部教育学科では、3年生から自分の興味・関心のある研究テーマに応じたゼミナールを選び、3年生は専門演習Ⅰ（前学期）及び専門演習Ⅱ（後学期）、4年生は卒業研究（通年）として取り組む。

その科目の中で、8～9月の幼稚園教育実習に向けて6～7月に3・4・5歳児向けの絵本を選び、読み聞かせの実践を行い、互いの選書及び読み聞かせの在り方について協議した。この学生達は、2年前学期に『保育内容（言葉）』にて絵本の価値について学び、後学期に『こどもの言葉遊び』にて絵本に関する保育実践に取り組み、3年前学期に『保育内容指導（言葉）』で絵本の読み聞かせ実践を経験している。7人のゼミナール学生の選書と観点は表17の通りである。

表17 3・4・5歳児に読み聞かせたい絵本と選書の観点

	3歳	4歳	5歳
A	ノントンのたんじょうび	くれよんのくろくん	いいことってどんなこと 自分が子どもの頃に読んでもらった絵本で印象に残っているもの
B	しろくまのパンツ	おてがみ	あまがえるりょこうしゃ とんぼいけたんけん 本屋さんに行って魅力的だなと感じたしかけのある絵本や絵の雰囲気
C	くだものさん	よるのトイレ	つままないつままない それぞれの年齢の子どもの興味や気持ちに寄り添った内容
D	もうぬげない	バナナじけん	うんちしたのはだれよ！ 面白い絵本が好きなので、子どもと一緒に楽しみたいという思い
E	だるまちゃんと かみなりちゃん	きりかぶ	ふしぎな キャンディーやさん 絵が面白いもの、ストーリーが考えさせられるもの
F	ノントンがんばるもん	きんぎょがにげた	はじめてのおつかい 自分が好きな絵本であり、子どもたちも興味を示しそうな絵本
G	おでかけのまえに	なしのこべリーナ	ねえさんといもうと 絵が芸術的で子どもの心に訴えるもの、子どもの心に寄り添ったもの

A, E, Fの学生は自分が子どもの頃に読んでもらった絵本の中から、C, Fの学生は子どもの年齢・発達、興味に応じた絵本を選んでいる。他の学生からは、子どもが喜びそうな絵本であること、みんなが知っている絵本は多くの子どもたちに支持されてきているので読み聞かせに適しているなどの評価がされた。

Bの学生は、本屋さんに出向いて新作として紹介されている絵本の中からしかけのある絵本を選んでいる。仕掛けの面白さに子ども達は惹きつけられるだろうという

評価と共に、しかけの所を触りたがることが予想されるので、その場合の対処の仕方を考えておくというアドバイスもあった。

D, Gの学生は、自分の好きな内容、絵の描写から選んでいる。他の学生とは違う選書の観点到「おもしろい絵本選び」と評価する感想と、「ナンセンス絵本を子どもは理解できるか」「描画の美しさだけで、子どもは興味をもって読み聞かせを聞けるか」などの感想も出された。

それぞれの学生の選書の観点を認め合いながらも、懸念されることなどを率直に出し合い、これらの議論を基に、再度幼稚園教育実習時に読み聞かせる絵本を選ぶこととした。選書に関する観点の交流になり、互いを高め合う取り組みとなった。

## 3. 絵本の読み聞かせに関する授業展開

どの保育現場でも、ほぼ毎日絵本の読み聞かせを行っている。保育者として働くためには、絵本の読み聞かせの技術はなくてはならないものと言える。

読み聞かせの留意点として、「保育内容・言葉」<sup>27)</sup>を参考に、①読み聞かせにあった絵本の選定、②下読みをしておく、③見やすい環境を設定する、④絵本の持ち方および高さに注意する、⑤絵本のめくり方に注意する、⑥自然な読み出しを大切に、⑦子どもの反応に応じて読んでいく、⑧ゆっくり読み聞かせることで文章力を育て、文字にも興味を持たせる、⑨読み終えた後に注意することなどについて事前に確認した。

### 1) 短期大学部こども学科『教育実習講義Ⅱ』の実践

短期大学部こども学科では、幼稚園教育実習に向けたトレーニングとして、絵本の読み聞かせを取り入れた。遠隔授業のため、読み手の音声を記録して提出とした。

対象絵本は『三びきのやぎのがらがらどん』とした。読み聞かせから劇へ発展させる保育活動として、本書が良く紹介されている。ストーリーが分かりやすく、ちいさいやぎ、にばんめのやぎ、おおきいやぎと大きさの変化があり、結びの言葉「チョコキン、パチン、ストーン。はなしはおしまい」がおもしろいことからである。学生の選書を見ると、美しい描写や可愛い絵が多く選ばれている傾向を感じられるので、あえてインパクトがあり、恐ろしさも感じる絵本とした。

参加学生18名の読み方の様子を見ると、読みにかかった時間にばらつきがあった。3分～4分、6分以上は2名と少なく、4～5分、5～6分は各7名が該当した。このように絵本を読む時にめくり方、読む速度に違いがあることがわかった。

この時間の違いは、まずはスピードの違いである。早

口な読み方は、スラスラと流れるように読んでいた。ゆっくりな読み方は、言葉をはっきりと間をあけて読んでいた。

間のあけるタイミングは頁の変わり目であった。ゆっくりな読み方は、ゆったりと聞くことができた。声の高さの違いも見られた。明るく感じる声はトーンが高めである。実際には、頁をめくり、子どもの反応をみながら読むとさらに時間が必要であると予想される。このように絵本を読む時にめくり方、読む速度、声の高さに違いがあることがわかった。読む速さや声の高さの効果については、聞き合いをすることが、効果的であると感じるが、実際には行うことができなかった。お互いに聞き合っただけを感じ、交流することで、自分の読み方を再認識し、他者からの刺激を受け学ぶことが大きいので双方向の交流をさらに取り入れなければならないと感じる。

## 2) 教育文化学部教育学科『保育実践演習』の実践

保育者として働くためには、絵本の読み聞かせの技術はなくてはならないものと言える。そこで、保育士資格取得のための最終科目である『保育実践演習』で子どもの中に育つことを期待するねらいを明確にもって絵本を選び読み聞かせ実践に取り組む。

自分の思いや願いを発表してから読み聞かせの実践を行った。発表の一例は、「4歳児の暴れん坊な心に寄り添った内容で、共感しながら見て聞いて欲しい」と願い『かんいじゅうたちのいるところ』を、「5歳児に友達の良さや大切さを感じて欲しい」と願い『ともだちや』を選んだなどである。3年生で教育実習、3・4年生で保育実習を経験してきている学生達なので、子どもの実態を把握した上でねらいをもって選書し、ねらいが達成できるように子どもに特に伝えたい場面はゆっくり感情を込めて読む、子どもに考えて欲しい場面では間をとる、登場人物に合わせて声の高さを変える、場面に応じて声のトーンを変えるなど、読み聞かせ方を工夫していた。

## 4. 絵本から生活や遊びへ発展させる授業展開

### 1) オノマトペを楽しむ絵本の活用

フランス語からきている言語の「オノマトペ」は、音や様態、身体感覚、感情を複合的に表現する言語である。

オノマトペを取り入れた絵本は数多くあり、子どもと一緒にオノマトペを楽しむことができる。そこで、このオノマトペを楽しむ方法を体験することを目的として、絵本を読むだけでなく、身体表現や自分なりの言葉を考えて交流する活動を実践した。

「教育実習講義Ⅱ」の2年受講者に対して、題材絵本

として『がちゃがちゃ どんどん』を使用した。この絵本のオノマトペを活用した表現遊びの指導案作りに取り組んだ。

絵本の中の「がちゃがちゃ」・「どんどん」の2枚の挿絵を使用した。「どんどん」の絵を先に提示して、「どんどん」という音からイメージする動きを子どもに考えさせ、導入とする。次に「がちゃがちゃ」の絵を提示して、音の想像、動き回る身体表現、仲間との共有というように表現活動を広げていく活動の展開である。その流れを指導案に表す。

オンデマンドの授業のため、指導案作成まではできたが、指導案を使用した模擬保育や、具体的な身体表現の動きの検証はできなかった。子どもにオノマトペを身体表現させることは、実践例をみる限りでは、子どもが動き回りながら、イメージを膨らませていく楽しい活動である。「擬音」から子どもが動きをイメージして、自分で全身を使って身体表現に繋げていく展開は保育活動において効果的であると期待できる。

アスリートが潜在能力を引き出すためにオノマトペを使ってスピードアップやリズムやタイミングを取りやすくしているという。動きに応じてぴったり合ったオノマトペを用いることで、子どもたちの表現はより生き生きとしたものになり、身体を気持ちよく動かせる原動力にもなると、山野(2018)<sup>28)</sup>は述べている。運動のコツを伝えるオノマトペとして、吉川(2013)<sup>29)</sup>はバイオメカニズム学会誌で検証例をあげている。実践を通して絵本の言葉に注目させ、言葉の面白さをもっと読み手が感じることが必要であると感じた。言葉が持つ面白さを感じながら、自分自身も楽しみながら読むことが必要であろう。授業では言葉の持っている魅力を掘り下げていくことで、幼児にも面白さを伝えていくことができるのではないだろうか。

### 2) 絵本に関する様々な取組の授業展開

教育文化学部教育学科では、4年生の1年間を通して卒業研究に取り組む。その取り組みの中で、絵本の意義と価値に関する研究、大型絵本を製作し保育現場で実践、布絵本を製作し保育現場で実践、歌を作詞・作曲しその歌を基に絵本を製作して保育現場で演奏と読み聞かせ実践などに取り組んだ。

絵本の意義と価値に関する研究では、保育者にアンケート調査を実施し、保育の中での絵本との関わりの実際、読み聞かせを行う際の絵本選書の観点と子どもに対する願いなどを聞き取り、分析を行った。成果としては、絵本について文献や現場の保育者の声を通して理解が深まり、保育者となる際に絵本に関して自信をもって保育実践できるとのことである。

大型絵本を製作し保育現場で実践する取組では、既成の絵本『へんしんトンネル』の大型絵本を製作した。大型にすることの効果も、子どもの反応の観察から分析した。見開き180cm×180cmの大型絵本にして子どもが入れるくらいのトンネルにしたことで、よりお話の世界に入り込んで読み聞かせを楽しむ様子が見られた。また、読み聞かせ後も絵本の所に来てトンネルをくぐるような動作をして次の頁に進むことを楽しむ子どもの姿が見られ、お話の世界を体感できる効果があることが分かった。

オリジナルのお話を製作し、大型絵本にした取組では、全ての頁を字のない画面とし、読み聞かせる保育者が絵本の中に入り込んでお話を進めていく構成とした。子ども達は、読み聞かせをする者に注目し、お話に聞き入り、読み聞かせをする人の動きや表情に注目しながら、お話の世界に入り込む様子が見られた。

二つの製作した大型絵本は、保育者となった際に保育現場で読み聞かせ実践を行うとのことである。

布絵本を製作し保育現場で実践する取組では、10種類の布絵本を製作した。ふわふわ、ざらざら、つるつるなど感触の違う素材に触れる、マジックテープの部分を貼ったりはがしたり、ボタンをはめたり外したりなど、ストーリーの展開に沿いながら手指を使い、感触を味わいながら、五感を通して楽しむ絵本となった。保育者として働く際に、この布絵本が財産となり、自分が担当する子ども達とまた実践したいとのことである。

歌を作詞・作曲してその歌を基に絵本を製作して保育現場で読み聞かせと演奏を実践する取組では、絵本の読み聞かせの後に歌の演奏を行うことで、4・5歳児は歌に聞き入っている様子が見られた。絵本と歌との組み合わせによる相乗効果で、子どもの感性を刺激できたという成果を得た。また、作詞が得意な学生、作曲が得意な学生、描画が得意な学生、全体のコーディネイトが得意な学生など、それぞれの特徴を活かしながら取り組んだことで、保育現場での保育実践に近い体験をすることができたことも成果の一つである。

#### IV. まとめと今後の課題

本研究では、学生が実践的に学ぶ実習先でもあり将来保育者として保育実践をする場でもある幼稚園、保育所、認定こども園等の保育現場における絵本との関わりの実際を、今まで収集した情報を整理、さらに新たに保育現場に向いて観察及び聞き取り調査を行うことを通して、再確認をした。

その結果、保育現場では園全体で子どもの成長・発達に応じた絵本と出会えるように幅広く、かつ教育的な価

値のある絵本を選書している園があった。また、どの園でも担任保育者は、自分の担当する子ども、クラスに応じた絵本を選んでいった。

絵本の読み聞かせ実践では、どの保育者も子どもの発達に応じた絵本との関わりがもてるようにということを意識していた。1歳児に対しては、絵本の読み聞かせを通して身近な人と心を通わせること。2歳児に対しては、絵本の言葉や動きを模倣しながら楽しむことや一緒に絵本を見る仲間を意識できるように。3歳児に対しては、日常の体験を追体験し、絵本の登場人物になったつもりでお話の世界を楽しめるように。4歳児、5歳児に対しては、絵本の世界から日常の生活や遊びに繋がることを意識して読み聞かせが行われていた。特に4歳児、5歳児の絵本の読み聞かせは、その後の遊びへの展開が出来るように、環境の構成がされており、この視点は本学における保育者養成に取り入れるべきことであると考えられる。

保育現場での絵本に関わる実践の様子から、絵本に関する保育実践力とは、①担任、担当する子どもの成長・発達、興味やニーズに応じた絵本を選ぶ力、②絵本との関わりを通して子どもの中に育つことを期待するねらいを明確に持った選書の在り方と読み聞かせの実践力、③絵本から生活や遊びへ発展させる実践力であると捉えた。

本学短期大学部こども学科と教育文化学部教育学科の絵本に関する授業展開は、こども学科は4科目、教育学科は4～6科目と様々な科目で段階を踏みながら重層的に取り組んでいる。

内容は、児童文化財としての絵本の意義と価値、保育の中の絵本に関わる活動、絵本選書の在り方、絵本の読み聞かせの在り方と実践、絵本に関する様々な取組の計画と実践などである。2年間または4年間で繰り返し絵本に関する学びを積み重ねることで、保育実践力の1点目、担任、担当する子どもの成長・発達、興味やニーズに応じた絵本を選ぶ力、2点目の絵本との関わりを通して子どもの中に育つことを期待するねらいを明確に持った選書の在り方と読み聞かせの実践力については身に付いていったと捉える。今後も継続、充実させていきたいと考える。しかし、3点目の絵本から生活や遊びへ発展させる実践力については、取り組んでいる内容が必ずしも保育現場の実践と結びついていないことを確認した。遊びを通して子どもを育てる保育現場で求められる保育者として必要な保育実践力であることから、今後の授業展開に取り入れていくこととする。

現在、保育現場に向かうことが難しい状況ではあるが、絵本から遊びの世界に広がる保育展開を写真や動画、可能であれば保育現場の観察を通して、今後養成し

ていきたい。

今回確認した保育現場における絵本との関わりの実態を踏まえ、絵本と関わる実践力のある保育者を養成していきたいと考える。

## V. 謝 辞

本研究に取り組むにあたり、多くの幼稚園、保育所、認定子ども園に訪問し、趣旨をご理解いただき、観察やインタビューをさせていただきました。ご理解とご協力に感謝申し上げます。

## VI. 引用文献

- 1) 正置友子・大阪保育研究所：保育のなかの絵本，p22，かもがわ出版社，2015年
- 2) 正置友子・大阪保育研究所：保育のなかの絵本，p48，かもがわ出版社，2015年
- 3) 瀧薫：保育と絵本，p3，エイデル研究所，2018年
- 4) 浅木尚実：絵本から学ぶ子どもの文化，p68，同文書院，2016年
- 5) 仲本美央・樋口正春：絵本から広がる遊びの世界，p6～11，風鳴舎，2019年
- 6) 文部科学省：幼稚園教育要領，p19，フレーベル館，2017年
- 7) 厚生労働省：保育所保育指針，p27，フレーベル館，2017年
- 8) 内閣府：幼保連携型認定子ども園教育・保育要領，p30，2017年
- 9) 厚生労働省：保育所保育指針，p20，フレーベル館，2017年
- 10) 内閣府：幼保連携型認定子ども園教育・保育要領，p23，フレーベル館，2017年
- 11) 仲本美央・樋口正春：絵本から広がる遊びの世界，p3～10，風鳴舎，2019年
- 12) 文部科学省：幼稚園教育要領解説，p228，フレーベル館，2018年
- 13) 厚生労働省：保育所保育指針解説，p258，フレーベル館，2018年
- 14) 内閣府：幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説，p228，フレーベル館，2018年
- 15) 絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本土養成講座テキスト作成ワーキンググループ：認定絵本土養成講座テキスト，p26，中央法規出版，2020年
- 16) 福沢周亮・藪中征代：100冊の絵本と親子の3000日，教育出版，2014年
- 17) 仲本美央・樋口正春：絵本から広がる遊びの世界，風鳴舎，2019年
- 18) 正置友子・大阪保育研究所：保育のなかの絵本，p31，かもがわ出版，2015年
- 19) 瀧薫：保育と絵本，p10～15，エイデル研究所，2018年
- 20) 児玉ひろ美：0～5歳子どもを育てる「読み聞かせ」実践ガイド，p26～28，小学館，2016年
- 21) 絵本ナビ：赤ちゃん絵本200冊，p3，玄光社，2019年
- 22) 仲本美央・樋口正春：絵本から広がる遊びの世界，P20，風鳴舎，2019年
- 23) 瀧薫：保育と絵本，p32，エイデル研究所，2018年
- 24) 厚生労働省：保育所保育指針，p14～15，フレーベル館，2017年
- 25) 厚生労働省：保育所保育指針，p20，フレーベル館，2017年
- 26) MOE2020年7・8月合併号：ミリオンセラー絵本ランキング2020，p3～4，白泉舎，2020年
- 27) 岸井勇雄・無藤隆・柴崎正行：保育内容・言葉，p115～118，同文書院，2013年
- 28) 山野てるひ：絵本から広がる表現教育のアイデア，p169，一藝社，2018年
- 29) 吉川政夫：バイオメカニズム学会誌Vol. 37 No.4，p215，2013年

## VII. 写真の取り扱い

本論文に掲載の写真は、幼稚園及び保護者の了解を得たうえで掲載した。

# How to Train Childcare Workers Based on the Actual Situation of Their Relationship with Picture Books at the Daycare Site

## Abstract

Most of the students in the Department of Children of the Junior College of our university and the Department of Education of the Faculty of Education and Culture are students who will find employment in kindergartens, nursery schools, and certified children's institutes in the future. At the nursery school, picture books are read aloud almost every day, and it was confirmed through observations at the nursery school and interviews with nursery teachers that the world of the picture books may spread to play. It was also confirmed that the nursery teachers select and read picture books with a clear aim of wishing for the growth and development of the child in charge and the class, and expecting to grow up in the child. Based on the above, both the Department of Children and the Department of Education have developed classes related to picture books in multiple layers while taking steps in 4 to 6 subjects. As a result, the growth and development of children, the ability to select picture books according to their interests and needs, and the ability to select books and read aloud with a clear aim to grow up in children through their relationship with picture books. Is considered to be trained. We will continue and enhance it in the future. On the other hand, regarding the practical ability to develop from picture books to life and play, it was confirmed that the contents of the university's efforts are not linked to the practice in the nursery field. Since it is a childcare practice ability required as a childcare worker required in the field of childcare to raise children through play, it will be incorporated into future class development. Currently, it is difficult to go to the nursery school, but I would like to train the childcare development that spreads from picture books to the world of play through photos and videos, and if possible, by observing the nursery school.

Keywords : Picture Book Choosing, Practical Power of Picture Book Reading

Development from Picture Book to Life and Play, Heavy Layers Class Development